

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

# CASBEE 新築[簡易版]

# 評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年追加版Ver.2 (BPI/BEI対応) 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010bpi&bei(v.2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	小田原駅東口立体駐車場	階数	地上 5F
建設地	小田原市栄町1丁目637-4外8筆	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	500 人
気候区分		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集会所、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年10月 予定	評価の実施日	2014年3月31日
敷地面積	3,548 m <sup>2</sup>	作成者	(株)エイト日本技術開発
建築面積	2,930 m <sup>2</sup>	確認日	2014年3月31日
延床面積	12,390 m <sup>2</sup>	確認者	(株)エイト日本技術開発



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: A: B+: B-: C:

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

参照値	100%
建築物の取組み	73%
上記+ 以外の	73%
上記+	73%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.8

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.6

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
省エネルギーや耐久性を考慮して、地球温暖化防止、ヒートアイランド現象の緩和に努めている。		
<b>Q1 室内環境</b> 断熱性能の高い外装材の使用により空調負荷の低減に努めている。化学汚染物質にも配慮している。	<b>Q2 サービス性能</b> 耐用年数の永い配管配線材料を採用し、ライフラインである水・電気・通信などの防災対策に配慮している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地周囲に緑地を効果的に配置し、植栽に親しむことができるように配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> 高効率エアコン、照明の採用で設備システムの高効率化を図っている。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水器具や省水型機器を採用し、水資源の保護に努めている。分別が容易なシステムの採用により、資源の大量消費を防ぐようにしている。	<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO <sub>2</sub> を削減し、地球温暖化防止を図っている。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される